

3歳ぐらいから4歳ぐらいのころ読む本

本館にある本

①3歳ぐらいから読める本

<p>14ひきのひっこし</p> <p>いわむらかずお／作・絵 出版社 童心社</p> <p>◎ねずみの家族が寒い冬をすごすための、家さがしにでかけます。さて、家を見つけることができるのかな？*14ひきのシリーズは他にもあります。</p> <p>Eい</p>	<p>わたしのワンピース</p> <p>にしまきかよこ／作・絵 出版社 こぐま社</p> <p>◎まっしろなわたしのワンピース。お散歩していると、もようが変わるふしぎなワンピース。次はどんなワンピースになるのかな？</p> <p>Eに</p>
<p>ぐりとぐら</p> <p>中川李枝子／作 大村百合子／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎青い帽子と服を着用した野ねずみのぐり。赤い帽子と服を着用した野ねずみのぐら。大きな卵を見つけて作ったものは？*ぐりとぐらのシリーズは他にもあります。</p> <p>Eお</p>	<p>おおきなかぶ（ロシア民話）</p> <p>A. トルストイ／再話 佐藤忠良／絵 内田莉紗子／訳 出版社 福音館書店（他からも出版されています。）</p> <p>◎はたけに、大きなかぶができました。そのかぶをおじいさんとおばあさん、そして、いぬ、ねこ、ねずみ、みんなでひっぱって抜こうとします。ひっぱるときの掛け声知っていますか？</p> <p>Eさ</p>
<p>パパ、お月さまとって！</p> <p>エリック・カール／作・絵 もりひさし／訳 出版社 偕成社</p> <p>◎パパは、かわいい娘に頼まれて、お月さまをとりに行きます。高い山のとっぺんにはしごをたてて、月へと登っていきます。</p> <p>Eか</p>	<p>めっきらもっきらどおんどん</p> <p>長谷川摂子／作 降矢なな／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎「めっきらもっきらどおんどん」と、適当に歌を歌っていると、不思議な世界へ引き込まれてしまいました。</p> <p>Eふ</p>
<p>ともだちや</p> <p>内田麟太郎／作 降矢なな／絵 出版社 偕成社</p> <p>◎さびしがりやのキツネが、「ともだちやさん」をはじめることになりました。《一時間100円》お友達ってお金ではかえないですよ？</p> <p>Eふ</p>	<p>14ひきのあさごはん</p> <p>いわむらかずお／作・絵 出版社 童心社</p> <p>◎一人にまかせずに、家族みんなであさごはんを作ります。パンやスープ、子どもたちが摘んできた野いちごもあります。*14ひきのシリーズは他にもあります。</p> <p>Eい</p>
<p>はなをくんくん</p> <p>ルーズ・クラウス／文 マーク・サイモント／絵 きじまはじめ／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎黒と白と黄色の三色の絵本です。冬眠していた動物たちが、何かに気づいて、はなをくんくんさせてかけていきます。その先にあるものは？</p> <p>Eさ</p>	<p>どろんこハリー</p> <p>ジーン・ジオン／文 マーガレット・フロイ・グレアム／絵 わたなべしげお／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎どろだらけで真っ黒になった、いぬのハリー。どれだけよごれたかという、くろいぶちのあるしろいぬなのに、しろいぶちのあるくろいぬに！家に帰ってもわかってもらえません。</p> <p>Eぐ</p>

<p>もりのなか</p> <p>マリー・ホール・エッツ／文・絵 まさきりこ／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎白黒の絵本です。男の子がもりのなかを散歩していると、動物達がついてきます。みんなでかくれんぼをしていると、パパが迎えにきてくれます。</p> <p>Eえ</p>	<p>ティッチ</p> <p>パット・ハッチンス／文・絵 いしいももこ／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎ティッチは三人兄弟の末っ子で、小さな男の子。お兄さんやお姉さんは体格や持っているものも大きくて立派なものばかりです。でも、小さなものだって大きくなるんですよ。</p> <p>Eは</p>
<p>とこちゃんはどこ</p> <p>松岡享子／文 加古里子／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎おばあちゃんにもらった、赤い帽子をかぶったとこちゃん。お出掛けのたびにどこかへ行ってしまう。さて、とこちゃんはどこにいるのでしょうか？</p> <p>Eか</p>	<p>よるくま</p> <p>酒井駒子／文・絵 出版社 偕成社</p> <p>◎よるくまが、男の子一緒にお母さんを探しに行った話です。「ママ、あのね…」と男の子がやさしい言葉で話します。</p> <p>Eさ</p>
<p>どうぞのいす</p> <p>香山美子／作 柿本幸造／絵 出版社 ひさかたチャイルド</p> <p>◎うさぎさんが小さなイスを作ります。「どうぞのいす」と名前をつけて、道に脇においておくと…。読み終わったあと優しい気持ちになります。</p> <p>Eか</p>	<p>どろだんご</p> <p>たなかよしゆき／作 のさかゆうさく／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎みんな一度は作ったことのあるどろだんご。ピカピカにしたり、固くしたりどろだんごの作り方がわかります。</p> <p>Eの</p>
<p>ねずみくんのチョコッキ</p> <p>なかえよしを／作 上野紀子／絵 出版社 ポプラ社</p> <p>◎1974年の出版以来、読みつがれている大人気のかわいい絵本です。ねずみくんにピッタリの赤いチョコッキ…どうなるの??</p> <p>Eう</p>	

②4歳ぐらいから読める本

<p>からすのパンやさん</p> <p>かこさとし／作・絵 出版社 偕成社</p> <p>◎からすのまちのからすのパンやさん。子どもたちの意見を聞いて楽しいたかさんのパンがでできます。</p> <p>Eか</p>	<p>11ぴきのねこ</p> <p>馬場のぼる／作・絵 出版社 こぐま社</p> <p>◎腹ペコのねこたちが、みずうみで大きい魚をつかまえます。最後は予想もつかない展開に！*11ぴきのねこのシリーズは他にもあります。</p> <p>Eば</p>
---	---

<p>わたし</p> <p>谷川俊太郎／作 長新太／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎わたしは山口みちこ。親からみたら「むすめ」、犬からみたら「にんげん」。ひとりなのに呼び名はいっぱい。</p> <p>Eち</p>	<p>おおかみと七ひきのこやぎ</p> <p>グリム／作 フェリックス・ホフマン／絵 瀬田貞二／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎留守番をしているこやぎたち。そこにおおかみがやってきます。おおかみにだまされないように、お母さんやぎかどうか、ためします。こやぎたちはどうなるのかな？</p> <p>Eほ</p>
<p>アンガスとあひる</p> <p>マージョリー・フラック／作・絵 瀬田貞二／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎こいぬのアンガスは好奇心旺盛で、なんでも知りたがりです。そのアンガスが「さんぶんかん、なにごととも知りたいとは思いませんでした。」と。さあ、何があったのかな？</p> <p>Eふ</p>	<p>おむすびころりん</p> <p>いもようこ／作・絵 出版社 金の星社（他からも出版されています。）</p> <p>◎おじいさんが、おむすびを食べようとすると、ころがって行って穴の中へ。穴の中には、ネズミたちがいて、大喜びでおむすびを食べていました。</p> <p>Eい</p>
<p>はなのすきなうし</p> <p>マンロー・リーフ／文・ロバート・ローソン／絵 光吉夏弥／訳 出版社 岩波書店</p> <p>◎70年以上前に出版され、今も読み続けられている絵本です。うしのフェルジナンドは、生まれてからずっとお花が大好き。他のうしたちは…。自分が好きなものを好きでいいんだという一冊。</p> <p>Eろ</p>	<p>おおきなおおきなおいも</p> <p>市村久子／原案 赤羽末吉／文・絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎幼稚園の遠足のいも掘りが雨で延期になってしまい、園児達がお絵かきをします。おおきなおいもの絵です。読んだ後、おいもが食べたくなります。</p> <p>J913あ</p>
<p>ふしぎなたけのこ</p> <p>松野正子／文 瀬川康男／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎主人公たるは、誕生日にたけのこを掘りに行きました。そのたけのこが、によきによきのびていきます。のびたたけのこをみんなで切りますが、その先にあったのは？</p> <p>Eせ</p>	<p>やあ！であえたね ダンゴムシ</p> <p>今森光彦／文・写真 出版社 アリス館（他の出版社の本もあります。）</p> <p>◎どこにでもいるダンゴムシ。ゆっくり、じっくり見たことありますか？</p> <p>J485い</p>
<p>とべバッタ</p> <p>田島征三／作・絵 出版社 偕成社</p> <p>◎蛇やクモの巣が怖くて、隠れて暮らしているバッタがいます。勇気を出して一歩をふみだそう！</p> <p>Eた</p>	<p>おっきよちゃんとかっぱ</p> <p>長谷川摂子／作 降矢なな／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎かっぱのガータローに連れられておっきよちゃんがかっぱの国に行きます。無事に家に帰れるのでしょうか？</p> <p>Eふ</p>

南下浦分館にある本

①3歳ぐらいから読める本

<p>ぐりとぐら</p> <p>中川李枝子／作 大村百合子／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎みんなの憧れ、あの大きなカステラの出てくるお話です！福音館書店のホームページには、ぐりとぐらのカステラの再現レシピも載っています。子どもたちから「食べたい〜！」というリクエストがあったら、ぜひぐりとぐらの気分で一緒に作ってあげてください！！ Eお</p>	<p>ことばのあいうえお</p> <p>五味太郎／作・絵 出版社 岩崎書店</p> <p>◎「あ」のページは「あっ！」次は「いたっ」と。音と字を結び付ける楽しい絵本です。 Eご</p>
<p>どろんこハリー</p> <p>ジョン・ジオン／文 マーガレット・フロイ・グレアム／絵 わたなべしげお／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎お風呂が嫌で飛び出して、外で遊んで黒い犬のようになってしまったハリー。家に帰っても自分とわかってもらえず、ハリーはどうやって自分だと気づいてもらったのでしょうか？ Eぐ</p>	<p>よるくま</p> <p>酒井駒子／文・絵 出版社 偕成社</p> <p>◎夜みたいに真っ黒で小さな、とてもかわいい「よるくま」と男の子がよるくまのお母さんを探しに夜の冒険に出かけます。お母さんが見つからなくて大ピンチ！となりますが、最後には思わぬところで見つかって一安心です。読み終わると優しい気持ちで眠れる作品です。 Eさ</p>
<p>ふるやのもり</p> <p>いまえよしとも／文 まつやまふみお／絵 出版社 ポプラ社</p> <p>◎さるはどうしてしっぽが短い？どうして顔が赤いの？どろぼうとおおかみが家に忍び込み、馬を盗もうとするお話です。 Eま</p>	<p>しずかなおはなし</p> <p>サムイル・マルシャーク／文 ウラジミレーベデフ／絵 うちだりさこ／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎ロシアの絵本で静かにちいさい声でよむおはなしです。ハリネズミの一家が二匹のオオカミから身を守ります。オオカミが最後に言った言葉は？ Eれ</p>
<p>100かいだてのいえ</p> <p>いわいとしお／作 出版社 偕成社</p> <p>◎主人公トチくんが100かいだての家の、最上階に住んでいる人から手紙をもらい遊びにいきます。どんな動物がすんでいるのかな？ Eい</p>	

②4歳ぐらいから読める本

<p>くいしんぼうのはなこさん</p> <p>石井桃子／作 中谷千代子／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎わがままに育った牛のはなこが、仲間の方までごちそうを食べてしまい、お腹がはれっしうになります。ひとりでよくばってはいけませんよ。 Eな</p>	<p>からすのパンやさん</p> <p>かこさとし／作・絵 出版社 偕成社</p> <p>◎冒頭の子育ての苦労は思わずパパママも共感してしまいそう…！さびれてしまったからすのパンやさんが、知恵と工夫で大繁盛するようになる結末は必見です！！ Eか</p>
--	---

<p>11びきのねこ</p> <p>馬場のぼる／作・絵 出版社 こぐま社</p> <p>◎大きくてとっても強いさかなを捕まえたい11びきのねこたちはどうしたでしょう？ドキドキしながらねこたちの作戦を見守ってください！*11びきのねこのシリーズは他にもあります。</p> <p>Eば</p>	<p>ぐりとぐらのえんそく</p> <p>中川李枝子／作 山脇百合子／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎ぐりとぐらは、おそろいのリュックを持って、野原に遠足にでかけました。毛糸をおいかけたり、くまさんとお弁当を食べたりします。*ぐりとぐらのシリーズは他にもあります。</p> <p>Eや</p>
<p>やあ！であえたね ダンゴムシ</p> <p>今森光彦／文・写真 出版社 アリス館(他の出版社の本もあります。)</p> <p>◎ちょっと文章が長くて多いな？とありますが、子どもたちはダンゴムシが大好き！！なので、写真だけでも大喜びしてくれます。文章は全部読めなくても、ぜひ心行くまで写真を見せてあげてください。 J485い</p>	<p>おっきよちゃんとかっぱ</p> <p>長谷川摂子／作 降矢なな／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎かっぱの国に誘われて、楽しく過ごしていたおっきよちゃんですが、おうちに帰りたくなって…？果たして無事におうちに帰れるのでしょうか？ぜひ自分が不思議な世界に迷い込んだ気分、ハラハラドキドキの大冒険をお楽しみください！ Eふ</p>

初声分館にある本

①3歳ぐらいから読める本

<p>もりのなか</p> <p>マリー・ホール・エッツ／文・絵 まさきりこ／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎男の子が森の中を散歩していると、動物たちが「自分も自分も」とどんどんついてきます。最後に待っている結末は…？綺麗なイラストで、大人も楽しめます。</p> <p>Eえ</p>	<p>かばくん</p> <p>岸田衞子／文・中谷千代子／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎動物園のかばくんと、男の子が連れてきたカメくんの、朝の目覚めから、おやすみまでを描いたものです。男の子の話しかける言葉も楽しいです。動物園に行きたくくなりますよ！</p> <p>Eな</p>
<p>ティッチ</p> <p>パット・ハッチンス／文・絵 いしいももこ／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎小さなティッチはお兄ちゃんお姉ちゃんより持ち物も小さいけれど、最後には「小さくてもすごいぞ！」とお兄ちゃんお姉ちゃんをびっくりさせます！</p> <p>Eは</p>	<p>ふるやのもり</p> <p>いまえよしとも／文 まつやまふみお／絵 出版社 ポプラ社</p> <p>◎「このよでいちばんこわいのはふるやのもり」…ちょっと怖いかな？と思わせておいて、結末が分かれば思わず笑ってしまう、楽しい作品です！</p> <p>Eま</p>
<p>きょだいなきょだいな</p> <p>長谷川摂子／作 降矢なな／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎いろいろなきょだいなピアノ、せっけんや黒電話がでてきます。100人の子どもが遊びます。読み終わった後、「あったとさ、あったとさ」と口ずさみたくなります。</p> <p>Eふ</p>	<p>しずかなおはなし</p> <p>サムイル・マルシャーク／文 ウラジミレーベデフ／絵 うちだりさこ／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎はりねずみの家族が、真夜中の森に散歩に出かけます。そこへ狼が襲ってきます、大変、どうなるんでしょう！？というドキドキするシーンもありますが、とてもきれいな絵の静かな優しいお話です。</p> <p>Eれ</p>

なにをたべてきたの？

岸田衿子／文 長野博一／絵
出版社 佼成出版社

◎食いしん坊でなんでも食べてしまう、しろぶたくん。何を食べたの？

Eな

②4歳ぐらいから読める本

<p>こねこのぴっち</p> <p>ハンス・フィッシャー／文・絵 石井桃子／訳 出版社 岩波書店</p> <p>◎リゼットおばさんが飼っているねこが、5匹の子どもを産みました。みんなと遊ぼうとしないで、一人で考え事をしている、小さくてかわいいこねこがぴっちです。いろいろな真似をします。</p> <p>Eふ</p>	<p>おおきなおおきなおいも</p> <p>市村久子／原案 赤羽末吉／文・絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎楽しみにしていたいもほり遠足が延期になってしまった幼稚園のみんなが、大きな大きなおいもの絵を描いて想像力を爆発させます。みんなで綱引きでおいもを抜いて、ヘリコプター2台で運んだ大きなおいもを船や恐竜にして、最後はおいもを食べたおならで宇宙旅行！夢が膨らむ一冊です。</p> <p>J913あ</p>
<p>ももいろのきりん</p> <p>中川季枝子／文 中川宗弥／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎大きなももいろの紙をもらった女の子が、その紙できりんを作ると動き出します。夢の広がるお話です。</p> <p>J913な</p>	<p>もりのへなそうる</p> <p>わたなべしげお／文 やまわきゆりこ／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎小さい兄弟が森に出掛け、へんな動物「へなそうる」に会います。へなそうるの言葉づかいがとてもおもしろいです。</p> <p>J913わ</p>
<p>ふしぎなたけのこ</p> <p>松野正子／文 瀬川康男／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎日本の昔話風です。たろがしがみついたまま、ふしぎなたけのこは空高く高く伸びていってしまいます。切り倒されたたけのこはいくつも山を越えた大きな池まで倒れますが、果たしてその池の正体は！？途中はドキドキしますが、最後はハッピーエンドです。</p> <p>Eせ</p>	<p>やあ！であえたね ダンゴムシ</p> <p>今森光彦／文・写真 出版社 アリス館(他の出版社の本もあります。)</p> <p>◎ダンゴムシの脱皮する写真や、ダンゴムシの赤ちゃん等、貴重な写真が盛りだくさんです。詳しい情報は大人も知らないことばかり。ぜひ子どもと一緒にわくわくしながら読んでください。</p> <p>J485い</p>
<p>おっきよちゃんとかっぱ</p> <p>長谷川摂子／作 降矢なな／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎ちょっとだけ怖いけど、面白い冒険物語です！水の世界の美しさ、最後のお別れシーンの切なさは、大人も必見です。</p> <p>Eふ</p>	